

種は、どうやって旅をするのでしょうか。

「タンポポ」は、綿毛が風に乗ってふわふわとただよっていく。

「ナンテン」は、鳥にくわえられてあちこちに運ばれていく。

「ウバユリ」「カエデ」は、強い風がふくと紙ふぶきのようにふきあげられて、ひらひらと舞って落ちていく。

「アオギリ」「カエデ」は、くるくると回りながらゆっくりと舞い降りる。

「アルソミトラ」は、高いところから、つばさをもった種が舞い落ちて滑空し、種を遠くまでとばす。

このような種のとびかたの美しさを実感し、植物の側から「なぜ必要なのか」ということを考えてみるのも楽しいと思います。

今回は、「アルソミトラ」「ニワウルシ」の種の模型を作り、とばしてみましょ。また、「フタバガキ」「モミジ」「カエデ」「マツ」などの種と模型も紹介していますので、参考にしてください。

用意するもの

- アルソミトラ・・・クッションシート・シール・クリップ
- フタバガキ・・・おりがみ・ホッチキスまたはのり

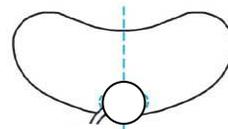
実験のやり方

○アルソミトラ

1. クッションシートを左右対称につばさの形に切る。
2. 中心線の前側にシールをはり、クリップをつける。
3. 左右中心の後ろ側を指で持ち、水平より少し下向きにして指を放す。(押し出さず、落とすような感じで) バランスがとれていると、すべるようにとんでいく。
4. おもりの重さや、おもりを付ける位置によって、とび方が変わるので、試してみましょ

○フタバガキ

1. おりがみを短冊状に切り、リボンの形にして、真ん中をホッチキスでとめる。
2. 上から落とすと、くるくると回りながら、落としたところから離れた場所に落ちていく。
3. 紙のはばや、長さを変えると、回り方がかわるので試してみましょ。



アルソミトラ



インドネシアの熱帯雨林に生え、高木にかららんで生長するつる植物。果実は直径20~30cmぐらいになり、中には300~500枚ぐらいの翼果が入っている。熟すと果実のそそこが三角にさけ、風で揺れるたびに翼果が舞い落ちて滑空する



幅 15 cm ぐらい

ニワウルシ



枝分かれが少なく、大きな羽状複葉の葉が、枝の先に集まって付くのが特徴的。高さは25mになる。生育しやすく、道路脇や空き地などに、群生していることもある



モミジ



マツ



フタバガキ



フタバガキ科の植物は、種類がたいへんに多く、600種ほどある。全て熱帯に自生し、特にそのほとんどはアジアに分布する。日本には自生しない。樹高50m前後になる巨木が多く、アジアの熱帯雨林を構成する

代表的な樹種である。

。「フタバガキ(dipterocarp)」の名は、「2つの羽のある実(di=2, ptero=羽, carpos=果実)」に由来する。この実がクルクルと回転しながら落ちてくる。このとき風が吹けば種子は親の木の真下ではなく、離れたところに落ちるので、種子が芽を出し大きく育つ確率が高くなる。らしい。



